

グループ別情報交換会

第1グループ： 「図書館資料の保存・管理」

檜原（岩手大）、板垣（岩手大）、長井（東北大医）、小清水（東北大医）、杉山（秋田大）、坂本（岩手県立大）、川尻（秋田公立美短大）、勝浦（国際教養大）、田上（東北福祉大）、田中（東北大） 計10名

最初に、自己紹介を兼ねて所属館の震災被害と現状について全員に話してもらった。規模は様々だが、どの図書館も震災の被害を受けており、現在も復旧中であった。資料だけでなく、建物や書架も被害にあったところも多い。グループ内で多数の人が話題としたのは、資料の落下、水濡れ、今後の保存についてであった。

1. 資料の落下は各館で起きており、特に震源地に近い太平洋側の図書館の被害が大きい。元の通りに配架するにも時間を要しており、今後の落下防止策も考えられている。その方法として、下記のものが挙げられた。

■落下防止バー

取り付けた館によると、弱い地震でもバーが上がってしまうので、下げる手間がかかるとのことであった。それでも落下した資料を元に戻すことを考えると仕方ないということであった。貴重図書室など、利用者が入らない場所ではバーを常に上げておくところもあった。

■落下防止シール

各図書館に業者が営業に行っているようで、各館がシールの存在を知っていた。導入を検討しているところもあったが、既に導入しないことを決定しているところもあった。導入しない理由は、滑らないためにかえって本を取り出しにくく、寄せにくいという点で、利用者の多い書架では有効ではないとのことであった。

■紐で固定

この方法はお金がかからないため、多くの館で実施していた。書架全体ではなく、上段をビニール紐で固定しているところが数館あった。利用者には不便だが、落下を考えると仕方ないという判断であった。特に利用者から苦情は受けてないようである。

■その他落下に関すること

- ・資料を隙間なくぎっしり配架したほうが落下防止となると実証したところがあった。但し取り出しにくいので、開架図書には不向きとのことである。
- ・前面ガラスの戸棚、展示ケースが倒れてガラスが散らばり、危険だった例があった。これに対し、戸棚は前面も木製やアクリル、強化プラスチック等を使用したものを使用

するほうがよいという意見があった。

・落下防止のために、バーを取り付けたり、紐を張ったりすると書架に負担がかかり、資料の落下は少なくてすむが、書架自体が痛むと業者からアドバイスされた例があった。

2. 水濡れは二次災害として起きたところもあった。地震により建物に亀裂が入り、そこから雨水が入って資料が濡れ、カビが生えた例があった。

その水濡れになった資料の対応として紹介された例は、ボール紙を敷き、濡れた資料を置き、その上にオープンシートを敷き、アイロンをしわにならない程度にかけて白紙をはさんで乾かすというもので、迅速な対応が必要とのことである。このような修復の知識を積極的に習得している館があった。

3. 今後の保存については、まだ具体的な方針をたてているところはなかったが、今回だけ修理に予算がついたところがあった。資料の現状を守るためにも修理が必要で、その技術を習得する必要性が挙げられた。毎年修理の講習会を開いている館もあり、また、館内で常にその技術を持った職員がいるという館もあった。一方で、そのような技術は伝承されておらず、習得する機会がないところもあり、今回の震災を機会に、多くの職員が修復の知識と技術を得るように講習会等の機会を持ちたいという意見でまとまった。

【報告：田中（東北大）】